

屋根工事について



主屋竣工状況 ガイドコロ

主屋及び新座敷の屋根は葺き乱れが見られ、海水の塩害によって重なり部分の傷みが大きかったので、下地の「土居葺」をやり直して葺き直しました。

素屋根がとれてほぼ2年ぶりに主屋と新座敷が姿をあらわしました。

瓦の種類は主屋は越前瓦、新座敷はいぶし瓦(若狭瓦)が使われていたので、補足した瓦には現在手に入る同種の瓦を用いました。



再利用できる古い瓦は正面側に用いました

耐震補強工事について

主屋・新座敷は耐震診断を行った結果、主屋は一部、新座敷は南北方向の耐震性能が不足することが分かりました。

主屋の一部に耐震壁を追加し、新座敷は主屋と一体化をはかって耐震性能を確保する補強工事を実施しました。



主屋・新座敷接続部の小屋部分



主屋から新座敷二階に上がる階段の外側



新座敷二階の床組部分

重要文化財

中村家住宅

主屋ほか11棟

保存修理工事

《事業期間》

2018年10月～2025年3月(予定)

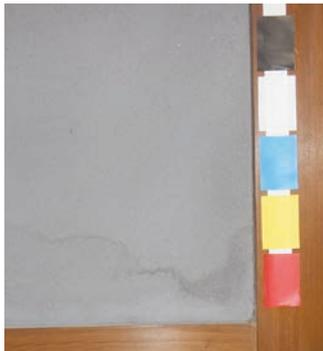
令和3年度は主屋と新座敷の屋根、木部、壁、
建具などの修理工事と合わせて耐震補強工事を
行いました。

壁工事について

壁工事を実施した結果、土壁の特色が明らかになるとともに、随所に独自の材料や左官技法が見られました。

本座敷や仏間の鴨居から上には青味がかかった鼠色の土壁が見られました。休足の間・隠居間そして新座敷の一階と三階(望楼)は黄土を塗っていましたが、長年の間に黒味がかかった「さび」が出て風情ある壁になっていました。

内部では主屋縁側や中廊下部分に黄色で艶のある壁が見られ、これは白漆喰塗の上に黄ノロ掛けをしています。ノロ掛けは、一見ペンキ塗りに見間違えるほど層が薄く高い左官技術で施工されていました。



鼠色の壁
本座敷小壁



「さび」が出た黄土壁
隠居間



白漆喰塗黄ノロ掛け
中廊下南端



黒色の壁
新座敷二階

きわめて珍しい土壁が新座敷に見られました。二階八畳2室の壁は黄土に大量の墨を混ぜていて、当初は完全な黒色の壁であったことが判明しました。紫外線などの影響を受けて日当たりのよい場所ほど薄く変色して茶色っぽくなっていました。

外部を黒漆喰塗とする例はよくありますが、内部で完全な黒色の壁というのは現在までのところ知られていません。他にはない建物を作りたいという施主の強いこだわりがここでも感じられます。

コラム

～天窓について～

中村家主屋では本座敷と隠居間の間に休足の間に通じる中廊下を設けるとい、江戸時代以来の伝統的な民家では例のない間取りを採用しています。そのうえで本座敷の床の間を通例の縁側の方でなく、東の中廊下側に作っています。床の間付近が暗くなるので、中廊下の上部に採光用の天窓を設けていました。今回ふさがれていた天窓を復活させました。

